

森林とのふれあい!

筑波大学大学院生・留学生が国有林を見学



「複層林って?」、「どうして複層林にするの?」・・・

12月19日(金)筑波大学生命環境系持続環境学専攻(増田美砂教授)の大学院生・留学生ら9名が、茨城森林管理署管内の国有林を訪れ、施業試験地や高性能林業機械による間伐事業地など、国有林の管理経営の実際の状況を学ぶ見学会が行われました。

これは、日頃、森林や林業の現場に接する機会が少ない学生たちに林業の現場を見る機会を設けたいという大学の意向を受け、茨城森林管理署が国有林のフィールドを教育分野に活用することを働きかけ実施されたものです。



ハーベスタの伐採・造材の早業に思わず驚嘆の声が上がる。

宮の郷木材流通センター。背景は建設中のバイオマス発電

見学会では、森林技術・支援センターによる筑波山複層林試験地、大沢試験地で様々なタイプの複層林施業や広葉樹導入試験の様子、近年急速に整備が進む宮の郷工業団地の木材関連施設の整備状況、大子町内の国有林での高性能林業機械を用いた列状間伐作業などを見学し、活発な質疑が交わされました。終了後、大学からは、「留学生はもちろん、国内林業に触れる機会が少なかった日本人学生も衝撃を受け、勉強になった。帰りの車内では見てきたことについての議論でもちぎりでした。」との報告をいただきました。茨城森林管理署では、今後も学生・研究者等の国有林のフィールド活用に協力していく考えです。

◎女へ宛



現場の様子に興味津々、暗くなるのも忘れ熱心に質問

